

としょかんだより

真間小学校 2022年1月号

新年あけまして おめでとうございます

年末から少しコロナの感染が収まったように見えて、年末から三が日にかけて様々な場所でも多くの人が出歩く様子が見られました。そのような中また新たなコロナ株の感染が報じられ、さらに感染者も増え始めています。昨年同様感染予防対策は続けるべきでしょう。

とは言え、新しい年を迎える喜びに変わりはありません。正月ならではといった催しも今年は各地で再開され、昨年は帰省できなかった故郷へ帰り、久しぶりに親兄弟や親戚と交流を深めた人たちもたくさんいたようです。今年こそよりいっそう良い年であることを願ってやみません。本年もどうぞよろしくお祈りします。

図書室からのお知らせとお祈り

◎12月にお知らせした本はすべて入りました。今月中に入る予定の本です。

○つるかめつるかめ(913)* ○ピロードのうさぎ(933)*

○少年弁護士セオの事件簿2 誘拐ゲーム(933)

○わたしのせいじゃない せきにんについて(大型版)(150)

○琉球という国があった(219)

*……あゆみの部屋におきます。

◎この時期図書室は暖房を入れていてもとても寒いので、上着を羽織るなどして寒くない格好で来てください。

◎2月に予定されている百人一首大会に向けて、学級で百人一首を楽しむ機会があると思います。札を一枚一枚消毒することができませんので、百人一首をする前には必ず手をよく洗ってください。

また、返却する時は必ず枚数を確認してください。もし不足があったら探してください。使えなくなってしまった札が出た時は図書室までお知らせください。

◎よんどころない事情で図書のある日に欠席をする場合、返却する本がある時は事前に自分で返却しに来るか、或いは友達または担任の先生に預けて返却してもらいようにしてください。その本に予約が入っていることもあるし、予約を入れなくてもその本を読みたい人がいるかも知れませんが、くれぐれも延滞にならないようにお願いします。

正月は、新しい一年の幸せや豊作をもたらす「年神様(歳徳神)」をお迎えする大きな行事として昔から大切に祝われてきました。一年の行事の中でも特に盛大に行われ、いろいろな習慣が残っています。正月の「正す」という言葉には「改めなおす」「初め」などの意味があります。つまり、「正月」とは、「古い一年を終えて、新しい1年を改めて始める最初の月」ということになります。

『きみがため はるののいいでて わかなつむ

わがころもでに ゆきはふりつつ』 光孝天皇 (古今集)

「あなたに若菜を贈ろうと思って野辺に出て摘んでいる私の袖に雪がちらちらと降っています」百人一首にも入っている有名な和歌で、知っている人も多いと思います。ここに出てくる若菜摘みは、1月7日に食べることで健康を願う七草粥に入れる七草を摘むことを指しています。この風習は中国から伝わり、日本では奈良時代から行われ、平安時代中頃には貴族の年中行事にも取り入れられました。庶民の間で広まったのは江戸時代からです。

芹、薺、御形、はこべら、仏の座、すすな(蕪)、すすしろ(大根)これぞ七草、という言葉もあります。今年皆さんは食べましたか？

1月25日は『初天神』。学問の神様といわれる菅原道真(天神様)を祭った天満宮の初縁日です。現在では入試合格祈願の神として有名で、各地の天満宮で受験生の参拝者が見られます。なかでも、京都の北野天満宮、大阪の大阪天満宮、福岡の太宰府天満宮、東京の亀戸天神、湯島天神は1月から2月にかけて特に賑わいます。

『初天神』は落語の題材にもなっていて、4年生以上の人は国語の学習で読んだことがあるかと思います。川端誠の描いた絵本と、11月に入った「なんででんねん天満はん 天神祭」という3年生で読みたい本にもなっている絵本が図書室にあります。機会があったらぜひ読んでみてください。